

THE WEEKLY REPORT 2003▶2004



TAKIKAWA

ROTARY CLUB

第2322回 2212 10月16日(木)



「百合の咲く庭園」 撮影／滝川ロータリー名誉会員 神部弘二

ロータリーテーマ：手を貸そう

ROTARY THEME : LEND A HAND

2003~04 国際ロータリー会長 ジョナサン・B.マジリアベ氏

「変革にチャレンジ」 林 博 幸 会長

第2321回例会記録 10月9日(木)

副会長挨拶・報告



今日は、前北海道知事堀達也様をお招きしてこの様な例会ができ、大変感謝を申し上げます。折角の機会ということで、近隣のクラブの皆さんにご案内差し上げましたところ、この様に多数お越し頂きましてありがとうございました。ご承知の様に、バブルの崩壊により地方経済は大きな打撃を受けまして、そんな困難な時代に北海道経済の舵取りとして、前知事は大変なご苦労があったと思われる。退任されてからまだ6か月という中で、非常にお忙しいことと思いますが、私共の例会にお出で頂きまして誠にありがとうございます。本日のテーマは「北海道知事という仕事」ということでご講演をして頂きます。短い時間で恐縮ですが、宜しくお願い申し上げます。

幹事報告

1. 赤平RC、深川RCより、会報が届いております。
2. 今月31日(金)に指名委員会を開催致します。
3. ガバナー月信10月号を、購読者の各ロッカーに入れております。
4. 今後の例会の案内です。来週の例会は通常通り開催。10月23日の例会は休会。10月25日は早朝例会、6時45分からホテルスエヒロのスカイラウンジで開催します。例会終了後、地区大会へ向かう予定となっております。

先週のプログラム

ゲスト卓話
ロータリー情報委員会担当
委員長挨拶及び講師紹介
田中幹雄委員長



今日のテーマでもあります「北海道知事という仕事」という本が、発刊されております。定価1,680円ですので、お買い上げ頂ければなと思っております。激動の2期8年道政に携わっておられました、退任されてから6か月、苦労話だとか面白い話愉快な話とかをして頂きたいということで、笹木副委員長が堀さんのところへ行ってお願いしましたところ、快くお引き受けして

頂きまして本当に厚くお礼申し上げます。今現在、スエック北海道という団体の代表をされております。それでは、宜しくお願い致します。

「北海道知事という仕事」
前北海道知事 堀 達也様



ただ今ご紹介頂きましたが、4月まで北海道知事を務めさせて頂きました堀でございます。知事在任中は、皆様方には暖かいご支援そしてご協力を頂きまして、厚くお礼申し上げます。知事を退任致しまして半年になるわけですが、知事8年それから又道職員としても37年程務めさせて頂きましたので、合計45年間道政に携わってきたということになるかと思っております。そのうちの26年間は、今日もお出で頂いておられますが、籾内さん笹木さん方と関わりの深い林業の仕事をして参りました。私自身は、むしろ林業の専門家と自負しておりましたし、知事時代も、今は水産林務部と言うんですが、当時の林務部の中では北海道の山を一番良く知ってるのは俺だろうと威張っておりました。そんなことで、森林の仕事が自分のライフワークかなと思っていたのですが、世の中というのは分からないもので、どこでどう間違えたのか、二度程間違えたかなと思っております。一度目は昭和60年、横路道政の時に秘書課長になったのが最初のつまづきと言いましょか、私の人生を変えた大きなきっかけであります。それから二度目は勿論、知事に出馬する時であります。思い返しますと、決して私はトップになる資格というかそういう資質は持っていない、むしろ世の中で言われていたけれども、寝業の堀ですとか根回しの方を得意としておりましたので、どちらかと言うと参謀的な仕事の方が向いているのではないかなと、自分なりに思っておりました。うちの妻なんかは「あなたは知事なんかやるべきではなかった。参謀役というかそういう役に徹した方が私も楽だったし、あなたもいい人生を送れたんじゃないかな。」ということをよく言いますが、ただ知事という職に着いた以上は、これは道民のために北海道のために全力を尽くしていかなくてはならないと考え、2期8年間色々な事がございましたけれども、何とか務めさせて頂きました。3期目も色々支援してくれる人がいらして、一時は3期目もという時期もあったのですが、やはり新しい人にこれからの道政の舵取りをして頂いた方が、北海道のこれからのためになるのではないかなということで、2期で終わることになりました。マスコミには色々なこと

を書かれまして、何か中途半端な三選出馬の話になったのですが、本音を言いますともっとカッコ良く2期8年で終えた方が良かったし、内々はそういう気持ちでいたわけですが、色々な経緯がございました。知事を退任した後は、多くの皆さんに大変お世話になったということで、それぞれの地域に感謝の意を伝えるために歩いているわけですが、広い北海道でありますから中々皆さんの所へお伺いすることができないということでありまして、今日はこのような機会を作って頂きましたので、喜んで滝川へ参りました。

知事在任中、この広い北海道を車で移動した距離は約166,000km。地球一周が40,000km位ですから、大体4周した計算になります。知的な仕事というよりは、体力勝負かなという思いをこの8年間で強く致しました。又ある意味では厳しいキツイ仕事というふうにも思いますし、面積の広いだけに課題が大変多かったという気がします。私は調整が得意と言われておりましたが、そういう調整を要する仕事が大変多かったということでもあります。例えば、ある空港の2,000mあった滑走路を2,500mとか3,000mにしたいという話が出てきたら、必ず他の何箇所からも声が上がって来ます。ところがこういう仕事というのは全部一ぺんに予算が付くわけではありませんから、その中で一番先にやるのはどこかという判断をしなければならぬ。言ってみれば政治判断になるわけですが、この辺を旨く調整しないと中央省庁からも、地元意見が一致していないものには予算を付けられないという厳しいお叱りをうけるので、政治的な調整を事前にしっかりしておくということも、知事としては大変大事な仕事の一つになります。それと、中央へ行くと大変だなと思うことがあります。今高橋知事が、北海道新幹線の建設要望で上京していると聞いておりますが、北海道新幹線と言うのは、叫ぶのは私一人でありまして、ところが一方で九州新幹線はといいますと、九州は7県でありますから7人の知事さんがおられて、中央省庁の人はいかにも九州は熱心で北海道は熱意がないととらえるわけです。これだけやってもまだ九州の熱意にかなわないのは、考えてみたら7対1ということでもありますから、何とか北海道が丸となって政治力を結集して北海道新幹線を実現しなければならぬと思うわけでありまして。北海道新幹線は、北回りで倶知安から小樽経由で札幌まで来るルートであります。新幹線という声が出た頃は、南回りにするか北回りにするかという色々な議論がありました。南回りにすると噴火湾を回って札幌に入ってくる、北回りにすると小樽を回って札幌に入ってくる。これが北海道新幹線のある

時期まで遅れた理由の一つになるわけでありまして。地元意見が南回り北回りということで分かれていて、地元意見をしっかり調整しないと、中々中央省庁は受け入れてくれないところがあるという現状はどうなっているかということ、北回りでルートが決まりました勿論駅も決まっております。一応形の上では、札幌までのルートは決まっていますということになります。私は当時副知事をしていましたが、このルートを決める時にですね、駅を今の函館駅に作るのか或いは函館は通過駅とするのかという問題があって、函館の港の方まで線路を引き込むというのは時間的にも経費的にもムダが多いわけですね。そうすると、今決まっているのは渡島大野の駅の近くなんですけれども、この辺に駅を作るとすると函館市内の皆さんは、それはけしからん、何で函館を通らないんだという話になります。で、そういう議論をしている間は北海道新幹線のルートも決まらないし、駅も決まらないということになりますから仕事が前に進みません。その辺の調整をしなければならぬということになります。これも難しかったのですが、今の渡島大野の所に函館駅という駅を作ることによって新幹線のルートも決着したわけですが、そういう色々なことが知事という仕事の中にはあるということを、一つご理解頂きたいと思っております。北海道新幹線については、私は是非函館まで取りあえず持って来ることが大事ではないかと思っております。青森側とそれから函館側で50何kmかだと思っておりますが、金額にすると4,300億位あれば函館まで新幹線を持ってこれるという状況であります。札幌まで持ってくると1兆5,300億位かかればこれは莫大な金額になりますから、函館まで持ってくる分についてはそう大きな予算がなくてもできるというふうに思っております。北海道の開発予算というのは大体最近では8,000億を切っておりますが、ただ大雑把な試算をすると例えば5年で作るということであれば、5年間北海道の開発事業費の1割強の予算をそっちへ回すことができれば、理屈の上では可能なわけですね。ところが今色々議論されておりますが、やはり日本の中央省庁はタテ割りでできておりますから、開発事業の予算を鉄道の方へ回すということとはとてもない、ほとんど不可能に近いというふうに言われております。私も実務的にはその様に思っておりますが、いつまでもタテ割りの仕組みの中で仕事をすることは限度がある、もっと地域の意向が反映された予算になる方がいいんじゃないかと思っております。

今北海道に必要なその社会基盤整備といいましますと、順序からいうと私は高速道路と新幹線があればいいんじゃないかなと、そんな気持

ちであります。例えば道路についていうと、北海道の道路というものはものすごく整備されているわけで、人口当たりの道路延長にしても北海道の方は断然高い。残念ながら面積当たりの道路延長となると、広い地域ですから若干見劣りすることになります。一般国道、道道、市町村道共にいわゆる社会資本の整備という道路の面から見ると、決して全国的には劣っていない。高速道路が若干落ちているくらいで、一般国道、道道なんかは全国レベルにあるといえるかと思えます。下水道の普及率については、低いんだろうと思われる方が多いかと思えますが、あにはからんや北海道の下水道の普及率は全国で今4番目です。86%位の普及率です。1位が東京、2位が神奈川、ついこの間まで北海道が3番だったんですが、大阪は面積が小さいですからちょっと普及すれば普及率がパーンと上がるということで、大阪が3位でその次が北海道ということであり、典型的なことをお話したんですが、社会資本整備という中で考えれば、北海道は他の府県に比べて遅れているということにはならないと思っております。

日高横断道路の建設凍結の問題についてありますが、普通は知事が止めたと言えばそれですむのではないかとマスコミとか評論家には言われるわけですが、中々これが知事が止めたと言ってことがすむものでもございません。とりわけ日高横断道路というのは、建設を始めてから30年位、40年代の半ば位から計画がされていたわけですが、最終的な判断として凍結と致しました。凍結というのは要するに休止でもないし、中止でもないし、凍結であります。これはやはり、今まで推進するために関わってきた地元の皆さんがいるわけですが、こういった皆さんの今までの努力を考えると、私の一つの判断だけでこれは止めたと言うのは私自身も難しいし、受けとめる方もそう簡単に割り切れるものでもないのではないかと、又実際は再開するのは難しいにしても、しかし今までのことを考えると凍結にして、そういう時期まで待たらないのではないかと判断させて頂きました。その判断の根拠となったのは、わずかあと20数kmなんです、ここに投入する金がこれから約1,000億と試算されていることにあります。地形が急峻なもんですから、大変な難工事が続きます。従ってしっかりと整備をすれば、工事期間が35年位かかるというのが、私共の試算であります。35年かかって

1,000億かけてやっとその道路が通れるようになるのですが、この財政の難しい時期ですからもっと早く完成させるべきものがあるのではないかと、そういう所を先にやったらいいのではないかと、そういうふうに説明をさせて頂きました。これから公共事業は「あれもこれも」から「あれかこれか」という選択と集中の時代に入って、地域の人々が主体的にそういう意見とか考え方を地域としてまとめていくということも、大事なことになるのではないかと考えております。限られた予算を地域のためにどう有効に使うかということは、霞ヶ関や道庁の札幌が考えるのではなくて、地元の皆さん方がこよりはこを優先してほしいということ、しっかり上げていくことが大事になってくるのではないかなと思っております。

先程も申し上げましたけれども、合わせて45年間大好きな北海道の仕事させて頂くことができたのも、多くの皆様に励まされ叱咤激励して頂いたからこそと、感謝の気持ち一杯です。私も時間ができましたので、皆さん方と一緒に一人の道民としてこの北海道の将来を考えていきたいと思っておりますので、今後共どうか宜しくお願い申し上げます。

BOX

竹田 俊一会員 例会にお招き頂きまして有難うございました。(砂川RC会長)
菅原 章二会員 結婚記念日に食事券を頂きました。妻と美味しく頂きました。

会長／林 博幸
幹事／川口 義弘
編集／クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日 ●毎週木曜日 PM12:30
例会場 ●ホテルスエヒロ
事務局 ●☎073-0032滝川市明神町2丁目2-16

ホテルスエヒロ7F TEL (0125) 22-3344
FAX (0125) 24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。